

仙台イチゴ塩害圃場における節水型かんがいシステムの実証試験

目的：宮城県亶理町沿岸部一帯は特産の「仙台イチゴ」の一大産地でストロベリーラインとして親しまれてきましたが、大震災により9割のイチゴ農家が壊滅的被害を受けました。

本プロジェクトは、被災イチゴ農家の迅速な栽培再開とストロベリーラインの早期復興を支援するため、当会が蓄積してきた技術を生かし、塩害圃場で栽培しながら除塩し同時に節水、省エネ、省労力を図り、優良なイチゴを生産するかんがい施設整備・管理技術を実証します。9月から実施しています。

実証試験の期間と内容：

- (1) 場所：宮城県亶理郡亶理町長瀨
- (2) 植栽概要：ビニールハウス（4.5mX60m）2棟、畝マルチ栽培、2条植／畝、4畝／ハウス、幅 0.3m／畝、植栽間隔@0.15m~0.30m
- (3) 実証試験項目：
 - 平成23年度
 - ・節水型散水方式としてドリップかんがいを導入し、従来使用されてきた多孔ホースと比較検証します。
 - ・散水方法（量）の違いによる圃場塩分濃度変化の検証
 - ・地下水塩分濃度変化調査
 - ・作物の収穫量・品質、施設の設置・管理経費、営農労力調査
 - 平成24年度以降（計画）
 - ・省力、省エネ、節水を考慮したシステムの検証
 - ・水源としてシートため池による雨水利用と節水システムの実証
 - ・高架水槽による無動力（自然流下）施設の実証
 - ・ソーラポンプ、ソーラコントローラによる自動散水施設の実証
 - ・流量比例混入装置による施肥施設の実証
 - 平成25年度
 - ・試験の継続とまとめ



図1 亶理町、山元町のイチゴ栽培施設分布と実証試験地

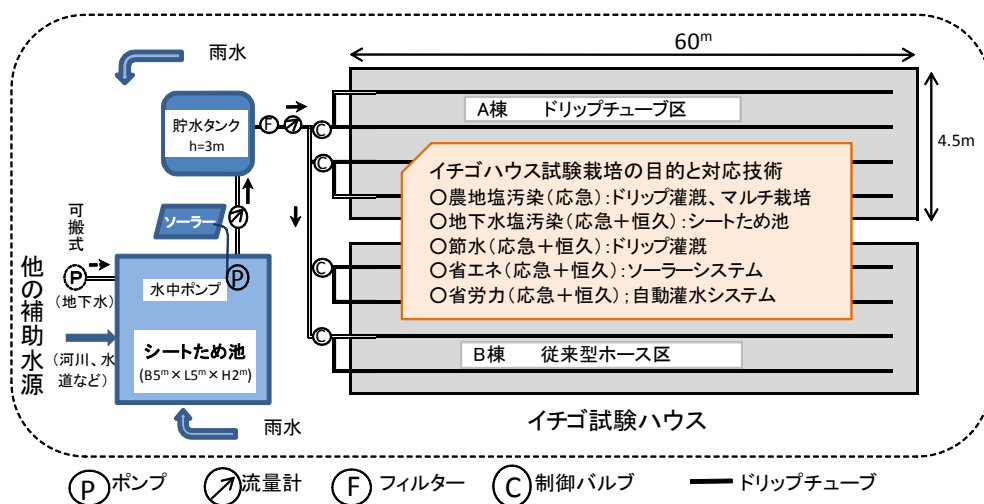
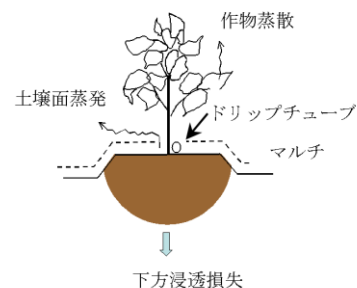


図2 試験ハウス平面図（計画）



(植栽状態)

実施：(社)畑地農業振興会

105-0012東京都港区芝大門1-3-11 Tel 03-3438-2581 Fax 03-3438-2583
 E-mail hatasin@mu.j.biglobe.ne.jp